



# 桂枝加竜骨牡蛎湯

## 金匱要略

組成	桂枝 3~4, 芍薬 3~4, 大棗 3~4, 生姜 3~4, 甘草 2.0, 竜骨 2.0, 牡蛎 3.0
主治	陰陽両虚, 失精
効能	調和陰陽, 収斂固澁

### プロフィール

『金匱要略』の「血痺虚劳病篇」を出典とする処方で、条文には「男子失精」「女子夢交」という性的神経衰弱に用いるような記述があるが、江戸時代より虚劳の処方として神経症領域の疾患に多用されてきた。現代では重鎮安神剤に分類される。

### 方解

本方は桂枝湯に竜骨と牡蛎を加えた処方である。桂枝の温陽と芍薬の補陰で陰陽を調和し、甘草・大棗・生姜で中焦の営衛の化源を振奮し、竜骨と牡蛎の斂陰の効によって、肝陽を和して心神を安寧にし、精気を固攝する。

### 四診上の特徴

大塚敬節は『漢方診療30年』のなかで、「精力減退、疲労を主訴とするものに用いるが、夜尿症や遺精、神経症、不眠症などにも用いる。陰莖や陰囊が冷えると言うものや、髪が抜けて困るというものに用いて効を得たことがある。桂枝加竜骨牡蛎湯証では、足が冷えてのぼせるという症状を訴えるものがある。腹部で動悸が亢進し、下腹部で腹直筋が突っ張っているものがある。脈は浮大で弱いものと、弦小のものがある。足が冷えて、のぼせ、ふけが多いものにこの方を用いて効を得たことがある。」と述べている<sup>1)</sup>。

腹診上では、臍上悸と下腹部の腹直筋の緊張(小腹弦急)が特徴的とされている。山田は腹部動悸を有した患者の治療経過を検討し、桂枝加竜骨牡蛎湯は5例で有効であり、3例は中肉であったが、全例腹力が弱で本方証の虚実の位置をよく示唆していたと述べている<sup>2)</sup>。

### 臨床応用

#### 1. 神経症

桂枝加竜骨牡蛎湯は、神経症を中心とした精神疾患に応用されることが多い。1例報告が多く、症例集積研究は少ない。

松浦らは、心身症・神経症で桂枝加竜骨牡蛎湯が有効であった8例の解析を行い、恐れや不安から登校・入社拒否例が多く、七情では「驚」だけではなく「恐」を主体とした場合にも有効であり、情動は変化しやすく心理療法を併用することが望

ましいと述べている<sup>3)</sup>。筒井らは、不眠、動悸、精神不安を主症状とした自律神経失調症26例に2週間本方を投与した結果、著明改善2例、中等度改善8例、軽度改善13例、不変2例、悪化1例であり、全身倦怠感、易疲労性、不眠、肩こり、心悸亢進、頭痛、頭重、不安、発汗、緊張、過敏、イライラの各項目で有意に改善が見られたと報告している<sup>4)</sup>。

田北らは、不安神経症患者49例に対し漢方治療を行っている。このうち、本方を投与した5例は有効3例、著効2例と有効性が高かったと報告している<sup>5)</sup>。川田らは恐怖体験後の気逆症状の7例に、桂枝加竜骨牡蛎湯と苓桂朮甘湯を併用し、効果を検討した。その結果、全例で著効を得たと述べている<sup>6)</sup>。後藤はイライラや頭痛、頭に血が上るような上衝の症状を訴えた心身症4例に桂枝加竜骨牡蛎湯を中心に投与し、3例で効果を見たと報告している<sup>7)</sup>。田原らは入院中に自慰行為やセクハラ行動や言動が見られた高齢男性2例に対し本方を用いたところ、言動が改善し安定した入院生活が出来たと報告している<sup>8)</sup>。松橋は、単極性うつ病の3例で、桂枝加竜骨牡蛎湯が著効を得たと述べている<sup>9)</sup>。山岡らは夫が単身赴任になったことに伴い生じた女性の自律神経症状を『単身赴任寡婦症候群』と名付け、過去の症例データの5例と共に検討し、「過緊張状態後の虚劳」が原因であるとした<sup>10)</sup>。佐野は産後の不安神経症に対して加療した1例を述べている<sup>11)</sup>。

この他、PTSD<sup>12)</sup>、舌痛症<sup>13)</sup>、癲癇<sup>14)</sup>、摂食障害<sup>15)</sup>、不潔恐怖症<sup>16)</sup>、夜間譫妄<sup>17)</sup>、心因性疼痛<sup>18)</sup>などに対する報告がある。

#### 2. 睡眠障害

不眠を訴える場合に、本方が奏効することがある。関矢らは、自分で灸をしたことにより不眠となった1例に本法を投与したところ、その夜から良眠となった1例を報告している<sup>19)</sup>。また、本方は入眠障害のみならず、入眠中に生じる異常行動に用いた報告もある。小坂は、クロナゼパム単独では治療が困難であったレム睡眠行動異常症と診断した65歳男性の寝言を言いながら歩き回り、字を書いたりふすまを蹴ったりする夜間異常行動に対し、桂枝加竜骨牡蛎湯2.5gとクロナゼパム0.75mgを眠前に投与したところ、1~2週間で症状が完全に消失した1例を<sup>20)</sup>、峯は男性部屋に潜り込む入院中の85歳の女性患者に本方を投与したところ、数日で改善した1例を報告している<sup>21)</sup>。夢交に関しては西山の報告<sup>22)</sup>などがある。この他、夜泣きや<sup>23)</sup>、副作用による悪夢に対しての有効例<sup>24)</sup>もある。

### 3. 動悸

動悸や器質的疾患のない胸部圧迫感などに応用される。

松本らは、更年期の女性で冷えと動悸を訴えた患者に本方を用いたところ、どちらも速やかに軽快した1例を報告している<sup>25)</sup>。また、中村は灸をすえすぎた後の頭痛や動悸、目眩などの症状に桂枝去芍薬加蜀漆竜骨牡蛎救逆湯の代わりに本方を用いたところ、症状は速やかに消失しただけでなく、元々の肩の痛みも軽快した例を報告している<sup>26)</sup>。

### 4. 泌尿器科疾患

夜尿症やインポテンス、男性更年期などに用いられることがある。

竹谷は夜尿症の治療において、虚証で精神的緊張、肉体的疲労から尿意を感じられなくなるような例、又は精神的緊張から頻尿を来すような例で、下腹部の緊張と腹部大動脈の拍動を触れ、物事に驚きやすく、神経症的傾向を示す者を適証として12例に投与した。その結果6例が有効、1例がやや有効であった。夜尿症の分類では、睡眠が深く且つ尿保持能力が低いものでは1/5例しか効果が見られなかったが、睡眠が浅いか尿保持能力が高いものでは有効性が高かったと報告している<sup>27)</sup>。また和志田は、83例の夜尿症の患児のうち26例に桂枝加竜骨牡蛎湯を投与し、著効5例、有効2例であったと報告している<sup>28)</sup>。

辻野は、末梢循環障害が少なからず関与しているインポテンス症例に対し、シロスタゾール単独と桂枝加竜骨牡蛎湯併用群で治療効果を検討している。その結果、20例中13例(65%)で臨床効果が見られ、10例では陰茎血流速度の改善も認められた。また、効果の見られなかった7例中3例でも血流速度が改善していたと報告している<sup>29)</sup>。この他、抗うつ剤の副作用による勃起障害に対して有効であったとの報告もある<sup>30)</sup>。

### 5. 皮膚科疾患

大塚は、火傷の際に桂枝去芍薬加蜀漆竜骨牡蛎救逆湯の代わりに本方を用いた経験を報告している<sup>31)</sup>。

笹岡らは、放射線皮膚障害に対する桂枝加竜骨牡蛎湯の皮膚病変予防効果について検討している。その結果9例中本方を内服した3例では皮膚障害はGrade 0~2が各1例であったのに対し、非内服群ではGrade 2が2例、潰瘍、皮膚剥離を伴うGrade 3が4例であった<sup>32)</sup>。林は脱毛症患者30例を対象に、治療効果を検討している。その結果、全体の改善率は33%であった<sup>33)</sup>。

また宮崎は、円形脱毛症に眼瞼痙攣を合併した2例に桂枝加竜骨牡蛎湯を中心に加療し軽快したと述べている<sup>34)</sup>。

### 6. その他

木村は月経不順に対し気剤を中心に加療した報告の中で、本方が有効であった2例を紹介している<sup>35)</sup>。また、寺師は、自著の中で不妊症に本方を使用した症例を紹介している<sup>36)</sup>。

大友は、VDT症候群で頭痛や目の痛みを訴えた3例に対し本方を投与し、軽快したと報告している<sup>37)</sup>。また、恩田は気の異常による痛みと考えられた原因不明の背部痛に著効を示した1例を報告している<sup>38)</sup>。関矢は神経過敏が関与した頭痛の男性例を報告している<sup>39)</sup>。

### 【参考文献】

- 1) 大塚敬節: 漢方診療30年, 創元社: 106, 1959
- 2) 山田光胤: 複合腹証に於ける腹部動悸, 漢方の臨床, 39(2): 250-257, 1992
- 3) 松浦達雄 ほか: 心身症に対する桂枝加竜骨牡蛎湯, 和漢医薬学会誌, 5(3): 502-503, 1998
- 4) 筒井末春 ほか: 自律神経失調症に対する桂枝加竜骨牡蛎湯一苓桂朮甘湯の効果, 医学と薬学, 7(3): 773-783, 1982
- 5) 田北雅夫 ほか: 不安神経症に対する漢方療法の効果, 日本東洋心身医学研究会誌, 7(1): 1-4, 1992
- 6) 川田信昭 ほか: 漢方療法が奏効した恐怖体験をもつ気逆疾患8例, 日本東洋心身医学研究会誌, 11(1/2): 72-78, 1996
- 7) 後藤哲也: 神経症における漢方の有用性, 第18回臨床東洋医学研究会講演記録集: 29-31, 2002
- 8) 田原英一 ほか: 高齢者の性的逸脱行動に桂枝加竜骨牡蛎湯が有効であった2例, 日東医誌, 54(5): 957-961, 2003
- 9) 松橋俊夫: 桂枝加竜骨牡蛎湯が著効を示した女子単極性うつ病, 新薬と臨床, 38(1): 91-94, 1989
- 10) 山岡傳一郎 ほか: 『単身赴任寡婦症候群』の一例, 東洋医学, 21(3): 47-52, 1993
- 11) 佐野敬夫: 妊娠・産褥期における心身医学と漢方, 産婦人科漢方研究の歩み, 22: 12-16, 2005
- 12) 前田修司: 桂枝加竜骨牡蛎湯の2例, 漢方の臨床, 50(9): 1239-1243, 2003
- 13) 恩田芳和: 舌痛症に対する漢方治療の1著効例, 痛みと漢方, 12: 25-27, 2002
- 14) 藤平健: 精神・神経科領域で使われる漢方②, 東洋医学, 21(3): 33-37, 1993
- 15) 窪田三樹男: 桂枝加竜骨牡蛎湯と摂食障害, 日本東洋心身医学研究, 18(1/2): 86-89, 2003
- 16) 松橋俊夫: 難治性不潔恐怖症に奏効した桂枝加竜骨牡蛎湯, 現代東洋医学(臨増), 12(1): 329-333, 1991
- 17) 吉原宣方: 男性の夜間譫妄に桂枝加竜骨牡蛎湯が著効した1例, 漢方診療, 8(4): 46-47, 1989
- 18) 川越いづみ ほか: 心因性疼痛に桂枝加竜骨牡蛎湯が著効した1例, 伝統医学, 12(3): 148, 2009
- 19) 関矢信康 ほか: 不眠の一例, 漢方の臨床, 56(2): 261-263, 2009
- 20) 小坂浩隆 ほか: 桂枝加竜骨牡蛎湯が奏効したレム睡眠行動異常症の1例, 漢方と診療, 4(1): 38, 2013
- 21) 峯尚志: 桂枝加竜骨牡蛎湯の運用において, Phil漢方, 27: 13-14, 2009
- 22) 西山英雄: 「鬼交」「夢交」の診療例, 漢方の臨床, 4(4): 201-205, 1957
- 23) 広瀬滋之: 夜泣き, 小児内科, 17(11): 1727-1730, 1985
- 24) 大原由久: アレルギー性鼻炎の副作用による悪夢に桂枝加竜骨牡蛎湯が有効だった1例, 漢方と診療, 4(2): 32, 2013
- 25) 松本大樹 ほか: 更年期女性の動悸・冷えに対し桂枝加竜骨牡蛎湯が奏効した1症例, 日東医誌, 63(5): 325-329, 2012
- 26) 中村謙介: 灸後の動悸に桂枝加竜骨牡蛎湯, 漢方の臨床, 30(11): 704-705, 1983
- 27) 竹谷徳雄: 夜尿症の発症機序からみた漢方治療, 日東医誌, 39(3): 185-190, 1989
- 28) 和志田裕人: 夜尿症に対する漢方療法, 小児内科, 17(9): 1411-1414, 1985
- 29) 辻野孝 ほか: インポテンス症例に対する経口剤の使用経験—桂枝加竜骨牡蛎湯と末梢循環改善剤併用について, 第11回泌尿器科漢方研究会講演集, 1: 32-36, 1994
- 30) 板井貴宏 ほか: 抗うつ薬服用による勃起障害に桂枝加竜骨牡蛎湯が有効であった1例, 漢方医学, 28(4): 179, 2004
- 31) 大塚敬節: 金匱要略講話, 創元社: 409-411, 1979
- 32) 笹岡彰一 ほか: 放射線皮膚障害に対する桂枝加竜骨牡蛎湯の使用経験, 日東医誌, 50(3): 451-454, 1999
- 33) 林美保: 脱毛症—脱毛症グループにおける桂枝加竜骨牡蛎湯の臨床効果, 皮膚科における漢方治療の現況, (3): 124-134, 1992
- 34) 宮崎瑞明: 円形脱毛症に眼瞼痙攣が併存する二症例の漢方治療, 漢方の臨床, 41(10): 1311-1316, 1994
- 35) 木村容子 ほか: 月経痛、月経周期異常に対する気剤による治療の試み, 日東医誌, 57(4): 453-458, 2006
- 36) 寺師睦宏: 不妊を治す漢方, 主婦の友社: 160-167, 1983
- 37) 大友節: VDT症候群における桂枝加竜骨牡蛎湯の治療例(第1報), 漢方診療, 7(6): 56-57, 1988
- 38) 恩田芳和: 背部痛に対する桂枝加竜骨牡蛎湯の著効例, 痛みと漢方, 9: 27-29, 1999
- 39) 関矢信康 ほか: 漢方治療が奏効した夫婦例, 漢方の臨床, 55(6): 863-866, 2008